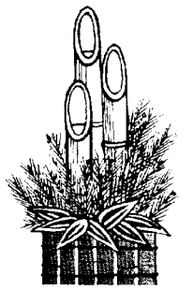
友愛人

会報 第三十五号

発行日　平成十七年一月二十七日
編集人　南洲吟道会広報局
発行人　理事長　吉永洲神
発行所　〒一六五-〇〇三五　東京都中野区白鷺二-三四-五
㈳日本吟道学院南洲吟道会
☎・FAX　〇三（三三三〇）七〇〇九

年頭に際して

吉永洲神



平成17年の年頭に際して、同志会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様にはご家族お揃いで良き初春をお迎えのことと拝察申し上げます。

昨年は、「災」で代表される様に災害・事件の多い年でありました。台風22号・23号及び新潟中越地震により亡くなられた方々及び其のご遺族に衷心より哀悼の意を捧げると共に、被災者の方々に心よりお見舞申し上げる次第であります。

本会から、中越地震被災者の方に僅少乍らお見舞金を差し上げました事を、ご報告致します。

然し一方吟道に於いては、昨年も亦、同志会員の多くの皆様のご活躍により、多くの輝かしい実績を残して頂きました。有坂龍煌さん急逝という悲しい事態を除けば、『創立30周年記念の会』の成功、米子の全国大会で女子合吟コンクール優勝、吟士権者選抜決選優勝等であります。よき同志会員の皆様に恵まれた幸せを、しみじみ噛み締める毎日であります。

さて本年は、学院創立25周年というけじめの年であります。総本部全組織を挙げて大会を成功させるべく、立案中であります。四つの各本部長を実行副委員長としこれを総括する実行委員長に、不肖、私が指名されました。微力ながら相努めますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年に引続き「プラス10（テン）運動」も実施中であります。

『会員増強10パーセント』

『会員増強10人』

等々を目指して頑張ろうではありませんか。一人でもいい、よき同志を勧誘して下さい。

人生は、総て健康第一です。

『栄養と休養と運動のバランスを!!』

という健康管理の原則を遵守しながら、益々の吟道ご精進を冀（こいねが）いつつ年頭のご挨拶と致します。

（理事長）

本部だより

祝 米子全国大会合吟コンクール優勝!!

去る11月4日（日）第49回全国大会が、米子市文化ホールで、盛会裡に開催された。本会から27名の参加を得て、合吟と歌謡吟詠とに出演した。

内山陽祥さん（鳥取県出身）永田遊祥さん（米子市出身）お二人の合連吟は、見事であり会場の拍手は暫し鳴り止まなかった。永田さんには、地元同窓生方31名もの応援団が来援され、ご本人の人徳が偲ばれた。

合吟コンクールは、男女二チームの出場で、男子も相応の出来栄であったが、残念ながら入賞を逸した。

女子チームは10点差で見事優勝を勝ち得た。メンバーは、次のとおり。中町会の三人は何れも初出場。

平松　玉祥（いずみ会）　内山　陽祥（龍暘会）
坂本　瑞祥（中町会）　前島　容城（中町会）
栗原　美城（中町会）

優勝の笑顔……おめでとうございます

その他、特番では、龍暘会長、湊山冴龍さんお二人の吟に乗って、永田宗岑・浜宗邦・西谷宗苑のお三方が華麗な舞を披露された。

菊田宗正さんの舞は、伊藤龍暢先生の吟に乗って、豪雄山中鹿介を偲ばせる見事な出来栄えだった。

ことほど左様に、参加者全員大忙しの会であった。

祝 吟士権者誕生!!

去る12月12日（日）調布市グリーンホールに於いて、吟士権選抜決選会が盛大に開催された。本会は、総勢46名の参加であった。多勢の参加に感謝!!成果は次のとおり。

一、漢詩（奥伝以上の部）
　優勝　吉永　龍奏（旭龍改め）二位との差38点
　五位　加藤　杏城
一、短歌・俳句の部
　三位　菊田　正龍
一、吟士権者認定
　吉永　龍奏

平松誠祥さんご夫妻設営になる会席で、27名の参加を得て

盛大な祝賀会が催された。多勢のご声援有難うございました。

平成十六年度秋季昇段審査　結果報告

10月10日（日）本会秋季昇段審査会が、鷺宮地域センターに於て粛々と実施され、次のとおり決定されました。

なお、千葉地区審査会は、前日の九日（土）に船橋市民文化ホールにて実施されました。

少年の部	二段	一名	計 一名
	三級	名	
一般の部	初段	四名	八段 三名
	二段	五名	準師範 二名
	初伝	四名	師範 七名
	三段	一名	計 四十三名
	四段	一名	
	皆伝	五名	総本部審査委員会をへて昇段 計 三十四名
	九段	九名	
	秀伝	一名	
	十段	二名	
	中伝	三名	
	五段	五名	
	六段	四名	
	奥伝	一名	
	七段	三名	
	総伝	五名	
	助教授	六名	
	教授	三名	
	師範	三名	

（指導局）

☆　正会員の規則が一部変わりました。

一、正会員に加入するのに、従来は入会金五千円と年会費一万円が必要でしたが、17年度からは入会金五千円が不要となりました。従って年会費一万円だけで正会員になり得ます。学院維持の基盤である正会員に奮ってご加入下さい。（中伝以上で代表者の推薦する会員）

一、正会員バッジは、従来は貸与であり退会時に返納を要しましたが、17年度から貸与ではなくなりました。従って返納する必要はなくなりました。

挑　戦

吉　永　典　子

二〇〇四年暮れ、吟士権者としてご承認をいただきました。吟道学院の先生方、ご声援いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

久しぶりのコンクール挑戦…本当に未熟な自分を痛切に感じました。おごった申し上げ方かもしれませんが、自己ベストの表現を作り上げる為に、舞台への取り組む姿勢の改善、心のトレーニングを必要と致しました。

予選当日、あえて緊張していないふりをしている自分に直前に気づき、さらに緊張いたす結果となりました。

前の方が吟じている時に心で唱えていると、詩文が思い浮かばず本当に動揺いたしました。変りに、絶句した私を父が怒っている様子を頭で思い描いたり出来るほどで、準備の悪さを反省いたしました。（本番は…心を無にして頑張りました。）

ジュニアということだけで、遥かに多くの舞台の機会を与えていただいてきたということ、その中で学び、培ってきたものも多くあると自負いたしております。

ただ、競吟というジャンルでの経験に乏しい私にさらなる挑戦が大切と感じました。

帰宅後、

「六人の審査員で、五八一点だっだんだよ…」

と興奮さめやらず主人に自慢げに話し出すと、一言、

「先生の娘だからじゃない」

いやいやそんな〜と思いつつ・・・気を引き締めました。

一〇〇％出し切ることが出来ている部分があっても、どこかでひとつ失敗すれば必ず減点されるということ。忘れていたように存じます。

向上を目指して、二〇〇五年も「挑戦」し、精進してまいりたいと存じます。

娘ということはさておき…、本会の一員として頑張ってまいりたいと存じます。皆様何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

女流吟道大会に参加して

中町教場　坂　本　瑞　祥

七月十八日は、朝から太陽がじりじり照りつける暑い一日でした。

会場が船橋で、駅から徒歩七分ということから、船橋さん、前島さんと私の三人は余裕時間を十分みて、〝さあ行くぞ〟と気合いを入れて出発しましたが、途中心配していたようなトラブルもなく、早めに会場に着くことが出来ました。

玄関前で安永さんに声を掛けていただき、龍暘先生にご挨拶を済ませて、ゆったりした気分で開演を待ちました。

オープニングは、『大漁吟じ込み』で、調子良く華やかに開幕となりました。第二部で『山行』を合吟された加藤さん母娘の凛とした姿は美しく、お二方の幸せが、私の心の奥に伝わり深い感銘を覚えました。

第四部では、南洲吟道会の合吟、『日本讃歌』に私も参加させていただきましたが、洲神先生、龍暘先生のご指導と、先輩のお力でリハーサルは二回でＯＫとなり、さすがは南洲吟道会という感を一層強くいたしました。

吟詠組曲では、情熱の詩人与謝野晶子を勉強いたしましたが、明治の時代に十二人の子供を生み育てながら多くの仕事を成し遂げられた素晴らしい女性がおられたことにただただ驚くばかりで、現代にあっても大いに見習わなくてはならないと痛感いたしました。

これからも出来るだけ多くの大会に参加し、楽しみながら勉強し、自分を少しでも高めるよう努めていきたいと考えております。

（註…中町会幹事）

入会一年を振り返って

国分寺教場　猪　浦　雅　吟

平成十五年六月初めの或る日、朝刊に折り込まれていた『国分寺市報公民館だより』の最終頁の「国分寺吟道会初心

者歓迎」の欄が目に止まり、早速電話で入会を申し込み、六月十三日（金）午後六時三〇分最初の教室に臨みました。

松本先生始め先輩の方々から心温かく受け入れて頂き、皆様の重荷にならぬようにと、自身に言い聞かせたのを思い出します。毎週の教室での先生と先輩の模範吟をテープに録り、自宅や散歩中、武蔵国分寺公園・くろがねの森で練習を重ねています。

自宅に戻り、自分の吟を聞いてみて、単調な節調と声が出ていない等反省材料ばかりに、一歩一歩ひたむきな努力と腹の底から声を出す訓練に力を注がねばと痛感……。

この一年の間に私にとって五つの大きな行事を体験いたしました。

第一の行事「平成十五年夏季吟道大学講座」（川口市文化センター）。八月三十・三十一日に松本先生に同行して頂き受講、全国各会を代表する指導者の講話と吟詠、中でも特に吉永龍暘先生の「和歌入り吟詠に親しむ」の優雅な節調に感銘するとともに、立派な指導者を戴く南洲吟道会に誇りを覚えました。

第二の行事「第四十七回全国大会」（山梨県都留市文化センター）、十月二十五～二十七日で吟行研修会でした。

初日の静岡県日本平から富士を眼前に望み、「富士山」の合吟で心身に清風がしみわたる思いに、詩吟を始めて良かったと感じたことが強く脳裡に焼きついています。

合吟コンクールで「富嶽」（女子）が準優勝の栄冠に輝き、南洲吟道会の実力が遺憾なく発揮されましたことは、洲神・龍暘両先生始め指導者の方々の喜びも一入と思われます。一つの目標に向かって全員が結束して盛り上げる姿に接し、大いなる元気を覚えて、詩吟の楽しさ、素晴らしさが増してきて、半年が矢の如く過ぎ去りました。

新年（平成十六年）二月からの教室は、私には初めてとなる昇段審査会（四月十八日）に向けて週毎に熱気を帯びていきました。先輩の方々の落ち着いた力のこもった練習に、私には不安と緊張が増し、松本先生のご助言を頂き、課題吟を「夜墨水を下る」「四海波」の二つに絞り込み当日に臨みました。

ひたすら落ち着いて吟ずることに集中したつもりですが、現実は意に反して数々の反省材料を残した最初の体験となりました。後日初段の雅号を拝受して、今後の益々の精進を心に誓いました。

そして五月二日「南洲吟道会三十周年記念吟道感謝の集い」が挙行され、洲神・龍暘両先生が育てられた会員の同志がこの日のため練習と研鑽を重ねられた成果が正に開花し、御来賓の皆様も会場の雰囲気に酔いしれたことと思います。

さて三週間後の五月二十三日、「第四十八回全国大会」（川口市文化センター）に参加。「白虎隊」の合吟で、プログラムに初段の雅号で名前が載っているのを見て感無量でした。しかしながら、合吟コンクールで「楠公子に訣るるの図」（男子）が健闘空しく選に漏れたことはとても惜しまれました。

「山中対酌」の菊田正龍様の有坂龍煌様遺影を前にしての吟詠はいつまでも心に残ることでしょう。また吉永旭龍様の「しらたまの」は、洗練された吟詠にひたすら酔いしれて拍手・拍手・拍手。

こうして一年がアッという間に経過いたしました。指導者の方々の吟道普及に対する献身的な姿勢はより良い人間社会育成の一助にもなると思います。

私も一歩一歩たゆまぬ努力を続けたいと思い、皆様の御支援と御指導をよろしくお願い申し上げます。

支えられて

あやめ第一教場　渡辺洋城

「今晩は！遅くなってすみません。」

「お仕事ご苦労様。疲れたでしょう。先ずはお茶をどうぞ。」と明るい、あたたかい声で先生と先輩が迎えてくれます。木曜日のお稽古の夜は、いつも、いつも準備すべてをしていただき、心の中では申し訳なさで一杯ですが、仕事の関係でどうする事も出来ないのが現状です。先生は「遅くなっても休まないで、頑張って来てくれるのが嬉しいですョ。」と言って下され、先輩は「お顔を見て、お話が出来、楽しい時間が共有できるのが嬉しいのョ。」と、その言葉に甘え、支えられ「今週も少しの時間でも休まず来て良かった。」…心の中に嬉し涙が湧いてきます。

先日の昇段テストの折にも他のお教室の先生が、私の音程が少しでも狂わない様に、吟じている私に見えるように指揮してくださったり、又大先輩の方々が励ましてくださったり、感想を言ってくださったり、的確な助言をしてくださったり、何て有難いことでしょう。こんな拙い私の吟に耳を傾けてくださるなんて。

或る時などは、自分でも吟じながら「どうしてこんなに音が外れるのだろう。」と思うほどひどい時がありました。ここのまま会場から姿を消してしまいたい思いで席に戻った時、隣の席の大先輩は目も合わせず、声も掛けてくれずそっとしておいてくれました。…というよりは、あまりのひどさに言葉を失ってしまったのだと思います。その後の試験の時には「今日は大丈夫だったわね。」と、勿論前回と比較してのことはすぐに分かりました。その言葉は私の心にこの次はもっと頑張ろうと、力を沸かしてくれました。

私は詩吟を習いたいと思って入会した訳ではなく、お誘いを受けたものの、やはり一番苦手な分野なので、お断りするつもりが、何となく入会することになり、更に驚いたのは『昇段テスト』なるものがあるとのこと。教室の中で〝恥〟をかくのだけでも死ぬ思いなのに、やはり私には無理、続けられない、やめようと何度思ったことでしょう。でも、教室の真剣さや暖かさに魅かれ、入会間もなく昇段テストを受けることになり、試験が始まる前、いきなり先輩に「さぁ声を出してごらん。」と言われ、その場所は公園。日曜日で目の前には人の往来と人家が立ち並び、恥ずかしさで一杯なのに何故か「声出し」をしてしまいました。（私の人生において外で声をはりあげたのはこの一度きり）迎えた本番は声も身体も音程もガタガタ。「もう、こんな思いはしたくない。」と思いながら先輩方の素晴らしい吟を耳にして遅々たる歩みでも諦めないで続ければ、いつかは私も「気持ちよく出来た。」と思う日が来るのでは…そんな蒼い夢を持ち続け現在に至っております。

以前女流大会に参加した折に、他の会の方から、「南洲吟道会は会の雰囲気がいいですね。」と言われた事があります。ふり返ってみれば私が考えてもいなかった詩吟を続けて来れ

たのは教室を始め、沢山の方々の暖い心に支えられたお蔭であることに改めて感激する思いです。いつかは私も誰かを支えることが出来るようになれたらと思います。

合吟コンクールに初出場して

中町会　栗原美城

中町会の未熟な私共三名（坂本瑞祥・前島容城・栗原美城）に平松玉祥さん・内山陽祥さんの二名を推薦頂き合吟コンクールの場を与えて下さいまして有難う御座いました。

出吟題名は秋にふさわしい「秋思」を選んで下さり、身も心もその詩情に感銘し練習に励む事が出来ました。合吟は独吟と違い「和」を持って一つに作り上げて行く大変さと楽しさ、平松・内山両先輩リードのもと練習を重ね、真に良い経験をさせて頂きました。

「あっ。」と云う間に鳥取県米子での日本吟道全国大会の吟行会。バスで移動中楽しみの中で「秋思」等、何気なく稽古して下さった洲神先生有難うございました。

いよいよ当日、さぁ出番、龍暘先生が「日頃の練習をそのまま出せば良いですよ。」と励まして下さり、両先生の不思議な力を頂いたお蔭で精一杯気負い無く吟じ終りほっと致しました。大会番組最後に順位が発表される。優勝四十二番南洲吟道会女子チーム。ウワァーと云う大きな歓声と拍手。南洲吟道会の皆様が大変喜んで下さり、改めてこれは凄いんだと実感。優勝と決まり嬉しく、びっくり仰天、『感激の極み』を味わいました。優勝カップの重い事。手にした金メダルも大きくて重い。優勝の栄誉を頂き両先生、先輩方の良き御指導、皆様方の応援有難う御座いました。

洲神先生、龍暘先生、私共に良い機会を与えて下さいました事、感謝申し上げますと共に厚くお礼申し上げます。これからは、この素敵な金メダルに負けない様、大変と思いますが、吟と親しみ頑張って参りたいと思います。よろしく御指導下さいます様お願い申し上げます。

平成十六年度　夏季吟道大学講座に出席して

若鷺教場　大塚厚子

私は今年の五月に入門したばかりの者です。

八月二十一、二十二日に夏季講座があると聞き、どのような勉強会なのかも分からず、軽い気持ちで参加することにしました。

テキストをいただいてまず驚いたのは、「吟道指導者七則」というのがあることでした。その中に「吟心の研究を怠ることなく自ら良師に就き、人格形成に努めること」という項目がありました。詩吟を通して人格形成を目指すとは、素晴らしいことだと思います。

さて、今年のテーマは「読みと余韻」ということでした。新体詩というものを初めて聞いて本当に驚きました。「えっ、これも詩吟？でもすごい！」なるほど余韻が大切な詩吟になっていました。一茶連吟では、良く知っている俳句でもこのような吟じ方があるのかとびっくり。あの先生だからできるのだろうなと感心しました。

私はコンダクターというものを知りませんでしたので、詩吟に音符を付けられるとは思ってもみませんでした。でも音符のお蔭で高低や流れが分かり、初心者の私にとっては有難いことです。

どの先生も内容が豊富でしたが、私には少し難し過ぎました。一講義一吟をじっくり掘り下げて下さったら、私にもついていけたかなと思います。

カラオケは結局のところ自己満足ですが、詩吟は聞いていて感動できる気がします。この夏季講座を通して感じたことは先生方の熱意、そして全会員が同じレベルに達するように努力する姿を見ることが出来たことはとてもよい勉強になりました。また来年も参加したいと思いつつ家路につきました。ありがとうございました。

訃報

南洲吟道会顧問・上村健龍先生が、平成16年11月14日逝去されました。享年82歳。茲に謹んで哀悼の意を捧げます。

先生は、南洲翁の知られざる側面を長期間に亘り会報に連載され、吟友の皆さんが物語の意外な展開に期待し次号を心待ちにしたものでした。本当に有難うございました。安らかにおやすみ下さい。

編集後記

明けましておめでとう御座います。

理事長先生の巻頭文にも書かれていますように昨年は災害の多い年でした。今年は「災い転じて福となる」そんな年であって欲しいと心から願っております。

プラス10運動についても言及されております。私たちの会でも、どうしても集まる人の年齢が高くなりがちです。是非若い人の参加が願われるところです。若鷺教場の大塚さんの文章にはカラオケと詩吟の根本的な違いが書かれておりました。同感です。

プラス10運動にちなんで、平均年齢が10パーセント下がれば……そんなことも考えました。

毎年、定年を迎える方も多いと思います。定年後は、地域のためまた吟道の精進に向けてゆっくりと過ごされては如何でしょうか。

吟友の皆さん、数々の会の行事に積極的に参加され、他の教場のあり方を知り、わが教場になにか見付けるのも、南洲吟道会の活性化に役立つのではないでしょうか。

（広報局長・広瀬）

この広告は、理事長先生のご配慮により掲載許可を頂きました。

随筆・自伝・自分史を
お創りになりませんか！

七五三の記念に…わが子の成長記録を
還暦を祝って…ご自身の足跡を文字で
古希記念…激動の大正・昭和・平成を生抜いた
あなたの歴史を書き綴る

自分史・随筆・詩集・漢詩集・研究論文等

出版のご予定がお有りになるとか、詳しく知りたいお方はお手数でも下記までお電話下さい。

〒275－0026
習志野市谷津3-1-44-304
☎0120-39-6066
組版工房　あせ
代表者　畔柳弘（弘城）

・出版のご予定が御座いましたらお見積りだけでも参加させて下さい。
・ご予算に合せて、誠心誠意お手伝いいたします。
・お電話を頂きますと、詳しいご案内書をお送りいたします。大筋でご理解なされば、係を参上させます。